
~ 蒼天に舞う運命 ~

炎髪灼眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～蒼天に舞う運命～

【Nコード】

N4766A

【作者名】

炎髪灼眼

【あらすじ】

この物語は高校生杉本裕一が青い髪の女の子に会いそのこと一緒に空を救うために戦うことになる二人の恋愛も少しずつただけど進んでいき杉本裕一は思う彼女を守りたいと

プロローグ

僕の名前は杉本裕一、現役高校一年生である

そして住んでいる場所は祖父が師範をしている剣道道場である

趣味は空、空を見上げてのんびりすることだ

その日も空を見上げてのんびりしていただけだったのにあんなことになるなんて

くくく 【出会い】

くくく 【舞う運命】

キンコーンカーンコーン

授業の終わりを告げる音が流れた

『じゃあな〜裕一!』

『うん、また明日!』

友達と挨拶を交わし

僕は帰路についた

ミンミン

蝉の声

季節は夏、照りつける太陽の日差しにより頬を流れる汗を拭き道場の扉を開け中に入った

『ただいま』

だか返事はこない

『またかな…』

不安になり中を探す

『やっぱりいない…』

僕は祖父と二人暮らしだ、しかし祖父は剣の授業といい山にこもることが多いためほとんど１人とかわらなかつた。

ガタン

僕は鞆を軽く投げ、空を見上げるため縁側に座った

『……………』

静かに空を見上げていると…

『あれ…』

ゴシゴシ

目の錯覚かと思い目を擦る

そしてもう一度見上げる

『なんだあれ？』

やはりそこに存在していた

一面の青空に亀裂があつた

ピカッ

亀裂が光った

『眩しっ…』

目を閉じて閉まった

『きゅっ〜』

叫び声？

僕は辺りを見渡したが誰もいない

もしかして

僕は空を見上げた

『（いた！）』

女の子らしき人物が空から降ってきている

『あのままじゃまずい!』

僕は一足飛びで屋根にのり女の子の落ちてくるポイントに移動した

『きゃ~~~~』

『今だ…』

僕は女の子が目の前に来た瞬間飛び出した

ガシッ

『ふえっ』

僕は女の子をキャッチするとそのまま着地した

『大丈夫かい？』

聞きながら彼女をみて思った、長い青い髪、見た目13歳くらいに
しかみえないし、しかも

『（かわいい…）』

『うん、あなただれ？』

『僕は杉本裕一って言うんだ、君は？』

『私の名前はないわ』

『えっ、名前がない？』

『うん、私たちはほかと区別するために髪の色で呼ばれているから、私は

「蒼」

『よ

『蒼？じゃあ名前決めてもいい？』

『何であんたが？』

『蒼なんて呼びづらいからさ蒼空って書いて

「ソラ」

は？』

『勝手にすれば！』

『あのさソラ?』

『いきなり呼び捨てなの?なに?』

『君はどこからきたの?』

『そんなの決まっているじゃない!空よ』

『は?』

僕の運命は空とともに動き出した

く2く【蒼天の刃】

『ねえソラ?』

『なによ?』

僕は気になっていることを聞いてみた

『君は何をしに…えっと…空からきたの?』

『今、天界で反乱がおこっているの…』

『はあ?』

訳がわからなかった

『だから天界で反乱がおこっているの!』

『て、天界?』

『うん、天界!そこで私達の勢力の

「白夜」

と敵の

「漆黒」

が戦っているの』

『はあ…それで君は?』

『私は地上にあるはずの刀

「蒼天の刃」

を探しにきたの!』

僕は驚いた、彼女が言った刀

「蒼天の刃」

は僕の家にあるからだ

『ねえソラ…その刀だけど…』

話そうとした瞬間だった

ドゴオオオン

『な、なんだ!?!』

『この気配は…漆黒の…』

『蔵のあるところからだ…』

タッ

僕は走り出した

『ちょ、待ちなさいよ!』

タッタッ

『はあはあ...』

僕が蔵の前に着くと

『と、扉が...』

蔵の扉が吹き飛んでいた

僕は急いで蔵の中に入った

目の前には地下に通じる階段があった

『やばい…蒼天の刃が…』

『えっ…』

僕の後ろには追いついてきたソラがいた

『ちょ、ちよつと！今なんて…』

タツ
タツ

僕はまた走り出した

少し走ると広い部屋にでた、そこには1人の男が立っていた

『この刀を我らのものに…』

部屋の中には刀が飾られていた

だが今その刀は男によって奪われようとしている

『待て！刀にさわるな！』

『もう遅い！』

男が刀に触れようとした瞬間

僕の後ろで

『顕現！

「白夜光剣」

！』

ソラの声だ

僕が振り返るとそこには白く長い刀を持ったソラが立っていた

『あんた達にそれは渡さないわ!』

『だがもう遅い!』

ガシッ

男は刀をつかみ鞘から抜こうとしたが

『何! 抜けないだと』

僕は聞いたことがあった蒼天の刃を扱えるのは世界で只1人だと

ピカッ

そして蒼天の刃は光りだした

シュンッ

『き、消えた？』

男は今まで自分の手の中にあつたものを探す

ガシッ

『おかえり！』

蒼天の刃は僕の手の中にあつた

『お前はいつたい？』

『裕一って呼んでくれよ、ソラ?』

『なんで今刀が…』

『簡単だよソラ、この刀の主は僕だからさ』

それを聞いた男は

『そうかなら貴様を殺せば主は変わる訳だな?』

『まあそついう事だね』

『そうか…いでよ!』

男が手をかざすと目の前に怪物が現れた

怪物は僕とソラをみてうなり声をあげている

『ゆ、裕—…／／／』

僕を呼んだソラの顔は少し赤い気がした

『なんだいソラ?』

『あなたは戦えるの?』

『まあ少しは!あの怪物くらいなら余裕かな…』

『なら裕一!あの怪物をお願い!私はあの男をやるから』

僕は怪物と向き合った

そしてソラの存在を背中に感じながら僕は怪物に向かっていった

手に蒼天の刃を持って

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4766a/>

～ 蒼天に舞う運命 ～

2010年11月12日11時21分発行